

♪ ぽこ あ ぽこ ♪

♪ 2019年度 **poco a poco** ♪

Nr. 16 2019年11月25日(月) 文責:プファイル・辰巳

11月は嘆きの月!?

- 1日: Allerheiligen (万聖節),
- 2日: Allerseelen (万霊節),
- 第3日曜日:



- Volkstrauertag (国民追悼日),
- 国民追悼日の次の水曜日: Buß- und Betttag (ざんげと祈りの日),
- 第4日曜日: Totensonntag (死者の日曜日)

上記の通り、11月はドイツでは亡くなられた方々に想いを馳せる月です。お墓掃除とお墓参りの月でもあります。墓参が終わるといよいよみなさんが楽しみにしているアドヴェント。クリスマスも近づいてきますね。

2学期ミニコンサート 申し込み締め切りは明後日!!

2学期ミニコンサートに出演しようと思っているみなさん、申し込みは終わりましたか? 締め切りは11月27日水曜日です。
お忘れなく!

予告: 例年秋に開催しております「全校音楽鑑賞会」は、今年度、2月の始めに開催できる見込みとなりました。2月3日(月)を予定しております。詳しくは3学期にお知らせします。

どうぞお楽しみに!

音楽こぼれ話 <大作曲家の家族たち ⑧ ショパンの恋人

(家族ではありませんが…) ~ ジョルジュ・サンド ~ >

「ピアノの詩人」と呼ばれたポーランド出身の作曲家フレデリック・ショパンの作品は、演奏会でもピアノの発表会でも人気があります。「子犬のワルツ」「革命のエチュード」「ノクターン」「英雄ポロネーズ」などはみなさんもきっとご存知でしょう。多くの作曲家と同様に、ショパンも短命(39歳で没)でした。元々病弱な体質だったようですが、そんなショパンに寄り添い、10年間ほど恋人として、または看護師のごとくお世話をしたのが、ジョルジュ・サンドでした。

ショパンより6歳ほど年上だったサンドは、フランスの女流作家でした。男装でパリ社交界に入り、注目を集めていました。18歳でデュドバンという男爵に嫁ぎ、1男1女をもうけましたが、その後別居生活に入り、多くの男性との恋物語がささやかれました。



ショパンとサンドが出会ったのは1836年。1838~39年の冬には、二人はショパンの療養のためにマヨルカ島で過ごしました。バルデモッサという村にあるカルトゥハ修道院内には、二人が滞在した部屋やショパンが使用したピアノなどが残されているそうです。療養にきたものの、修道院の部屋は寒々としており、残念ながら、二人は快適に過ごすことができなかったようです。ショパンには肺結核の兆候があったようですが、その容体は返って悪化の方向に進んでしまったようです。それでも、ここで、ショパンは有名な「雨だれ」という曲を始め多くの作品を作曲し、サンドは「マヨルカの冬」という作品を執筆しました。

その後も二人はバカンスをサンドの故郷で一緒に過ごしたり、パリで隣同士の家に住んだりしていました。ところが1847年に、サンドが執筆した小説の中にショパンと思しき人物が登場し、その人物描写がショパンの気に入らなかったところから、二人の関係は悪化し始めました。10年ほど続いた二人の関係は間もなく終わり、ショパンは1849年に39歳の生涯を閉じます。



サンドはというと、けっこう長生きをしました。1876年に71歳で亡くなるまで、女性利権拡張運動主導するとともに、文学作品を書き続けたそうです。